

新年度予算編成に関する要望書を提出



清水市長に予算要望書を提出する鎌ヶ谷市議会公明党
(令和元年 11 月 1 日 鎌ヶ谷市役所)

公明党は、生命・生活・生存を尊重する人間主義を原点に、生活者の声を政策に反映してまいりました。

少子高齢化・人口減少社会を見据えた様々な課題の解決には、生活現場の声を真摯に受け止め、市民との相互信頼は不可欠であり、責任ある政治が求められていることを強調。その上で、

防災・減災対策や教育・福祉の充実、安心・安全、未来を見据えた街づくりなど、13分野・331項目にまとめ「令和2年度鎌ヶ谷市予算編成に関する要望書」を清水市長に提出しました。主な重点政策は以下の通り。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 行政改革の推進と自主財源の更なる確保 | 8 障がい福祉サービスの充実 |
| 2 災害情報伝達手段の整備・拡充 | 9 教育環境の充実 |
| 3 自主防災行動力を高めるための施策の充実 | 10 通学路の安全総点検の実施と対策強化 |
| 4 総合治水対策による都市型水害対策の強化 | 11 ききょう号の利便性向上 |
| 5 防犯灯管理・LED化推進事業の促進 | 12 資源循環型社会形成の促進 |
| 6 待機児童対策の推進と幼児教育の充実 | 13 救急医療体制の充実強化 |
| 7 介護予防の推進及び介護サービスの充実 | 14 新京成線高架化後の周辺整備の促進 |

鎌ヶ谷市学校給食センター視察

平成26年4月にオープンし、翌年2月から学校給食の段階的な食物アレルギーの除去食の提供に取り組み、卵・乳・落花生・えび・かに・そばの対応のほか、令和元年6月から小麦の除去食の提供も開始され、表示義務7品目すべての除去食が提供されるようになりました。

またウインナーやハムなどの加工肉のアレルゲンフリー食材やエッグフリーのマヨネーズ、小麦を使用しないカレールーなどの活用についても令和元年6月から食物アレルギー対応として行われています。



学校給食センターを視察する公明党鎌ヶ谷市議団
(令和元年 10 月 9 日)

鎌ヶ谷市議会公明党の市政に関する一般質問から

小易 和彦 議員

幼児教育・保育の無償化に向けた取り組みについて

10月から始まる国の幼保無償化について、保護者が子どもを安心して預けられるよう万全の準備を進め、新制度を混乱なくスタートさせるための取り組みを要望しました。また待機児童対策は、無償化と並ぶ「車の両輪」となることから、保育士の確保などの環境整備を図っていくことを要望しました。市では、保育士の確保について、令和元年度は当初採用予定1人から8人に増員するなど、待機児童対策を実施しているとの答弁がありました。



小中学校の外国語教育について

新学習指導要領の全面実施（小学校来年度・中学校再来年度）を見据えた英語教育の取り組みについて、外国語専科教員、ALT、外国語活動支援員などの人的指導体制の整備状況を確認するとともに、ソフト面（先生方の研修や教材作成など）・ハード面（イングリッシュルームの整備など）の両面から万全の準備をしていくことを要望しました。

伊福 幸一 議員

本市のスポーツ振興について

鎌ヶ谷市は、生涯スポーツ都市宣言を掲げており、子どもからお年寄りまでスポーツを親しむための環境作りは、スポーツ選手の育成や市民の健康増進、地域コミュニティの形成などにつながるとの観点から、以下の3点について市に要望しました。

1. 福太郎スタジアムの充実強化として、夜間でも使用できる照明設備と雨をしのげ、夏の暑い日差しから身を守る、メインスタンドの屋根の設置。
2. 親子や友だち同士でキャッチボールやサッカーなど、ボール遊びができる公園等の整備。
3. 子どもからお年寄りまで、様々なスポーツを愛好する市民が、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向やレベルに合わせて参加でき、地域住民により自主的、主体的に運営される総合型地域スポーツクラブの普及啓発。

他市の活動状況を研究し、本市にふさわしい在り方を検討するなどの答弁がありました。



富田 信恵 議員

障がいのある方に図書の宅配サービスを

図書館を利用する際の利便性向上について質問しました。身体が利かず、付き添いがいなくては外出が困難な市民から「図書館の本を郵送や宅配サービスで借りられないか」とのご意見があったことを紹介し、電話やファックスで申し込めば、図書などを郵送、または職員が宅配を行っている近隣市の事例を踏まえ、同様のサービスが鎌ヶ谷市でも導入されるよう要望しました。市からは、具体化に向けて検討していくとの答弁がありました。



介護予防事業の取り組みについて

超高齢化が進む現代において、シニア世代が介護を必要とせず健康に暮らしていくために、本市は、ちょ筋教室などの介護予防講座や、地域で活動できる体制づくりの支援を行っています。そうした取り組みの一つひとつは、広報かまがや等で紹介されていますが、実際に興味があっても、どのような取り組みが、いつ、どこで行われているのかがわかりにくい現状を指摘し、ガイドブックの作成等、市民にわかりやすく「見える化」するよう市に要望しました。

鈴木 哲也 議員

鎌ケ谷市の防災対策について

台風 15 号により鎌ケ谷市でも床上・床下浸水、道路冠水、道路・公共施設の損壊、倒木等、合計 408 件の被害の他、最大約 4,400 軒の停電が市内全域で確認されました。停電の復旧に関する市民からの問い合わせに対して、行政からの明確な情報が提供されなかったことから、市民の不安が拡がり、大きな課題を残す結果となりました。そこで、災害時にスピード感をもって市民の不安解消に繋がる情報の発信に努めるよう要望するとともに、課題克服に向けた今後の取り組みについて質問しました。

今回の教訓を踏まえ、停電の復旧情報については、東京電力からの情報入手の手段など、改めて協議を行い、更なる連携を深めるとともに、気象情報や避難所開設情報などについては、防災行政無線や安心 e メールを活用し、早い段階での情報提供に努め、市民の不安解消を図っていくとの答弁がありました。



矢崎 悟 議員

超高齢社会を見据えた移動支援サービスについて

社会とのつながりを持ち、日常生活の活動量を維持していくことは、介護予防の観点で重要とされています。そのうえで、運転免許を返納するなど、移動手段を持たない高齢者が、気軽に外出できるよう、「ききょう号」の利便性の向上について質問しました。「ききょう号」は、令和 3 年度からの新たな運行計画の策定に向け、取り組みを進めており、サービス内容の充実や施策の有効性について検討を行うとの答弁がありました。



旧第二学校給食センター及び旧トレーニングセンター跡地の活用について

当該施設の跡地活用については、地域の排水整備における活用と柔軟な発想及び豊富な経験を生かした提案を募り民間活用を図るとの方針が、令和元年 6 月に市から示されました。

当該地域の治水対策が一日も早く成し遂げられること、また民間活用については、周辺の住宅地や自然環境に配慮しつつ、地域のまちづくりや活性化につながる事業となるよう要望しました。

台風 15 号被害に関する要望書を提出

令和元年 9 月 9 日未明に上陸した台風 15 号では、長時間に渡る停電が市内で発生し、熱中症への健康被害の懸念や災害情報の伝達、避難所の開設・閉設の判断などにおいて、新たな課題が見受けられました。

今後の災害対応において以下の対策を講じるよう、清水市長に要望書を提出しました。



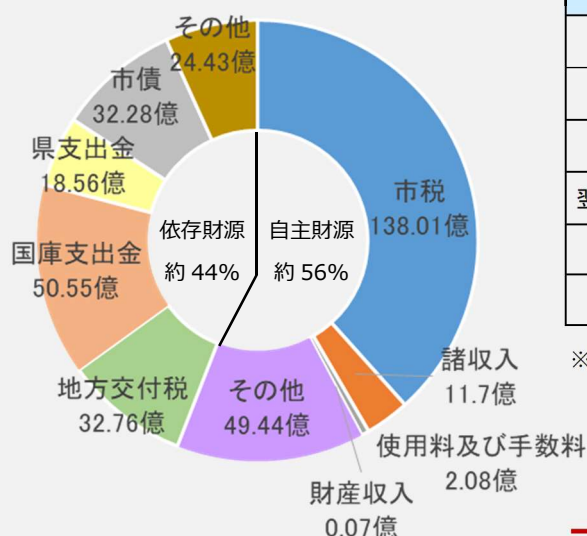
(令和元年 9 月 10 日 鎌ケ谷市役所にて)

【主な要望項目】

1. 安心 e メールや SNS を活用した情報発信の充実、普及促進
2. 障がい者や高齢者など情報弱者に対する情報伝達手段の充実
3. 高齢者や乳幼児のいる家庭への積極的な早期避難の呼びかけを行うこと
4. 避難所や公民館への非常用発電機や情報通信機器の充電設備の配備
5. 必要に応じ、備蓄倉庫での食料や水を提供すること
6. 避難所の開設にあたっては、情報発信など早期に対応を図ること
7. 避難所の閉設においては、停電の復旧状況を考慮し判断すること

平成30年度 決算認定について

市の歳入



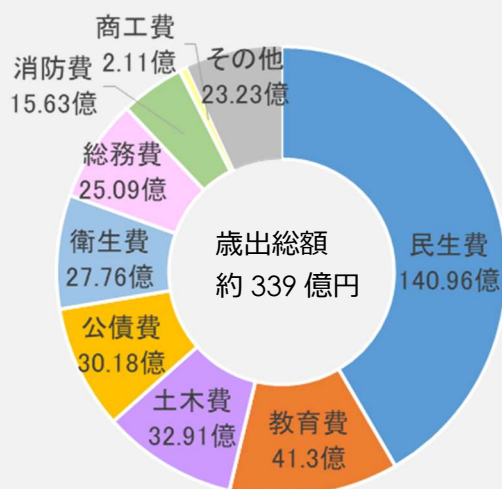
一般会計収支の状況

(単位: 千円)

年度		30	29	28
区分				
歳入総額	A	35,986,942	35,170,680	36,461,281
歳出総額	B	33,915,545	32,393,205	34,837,910
差引額(A-B)	C	2,071,397	2,777,475	1,623,371
翌年度へ繰越すべき財源	D	110,376	146,813	55,746
実質収支(C-D)		1,961,021	2,630,662	1,567,625
単年度収支		▲ 669,641	1,063,037	▲ 430,118

※単年度収支は、当該年度の決算による実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額

市の歳出



決算に対する公明党の意見

平成30年度は、民間保育所整備助成事業や地域型保育整備助成事業など待機児童対策の推進をはじめ、小学校のトイレ洋式化等の義務教育施設維持補修事業や陸上競技場改修事業など、子育てサービスや教育環境の充実を図るとともに、準用河川整備事業や雨水貯留池整備事業など、災害対策の強化につながる事業、魅力あるまちづくりを目指す事業として、新京成線連続立体交差事業などを推進してきました。

平成30年度決算の実質収支は、約19億6千万円と黒字であるなど健全な財政状況が続いていますが、少子高齢化による社会構造の変化を見据えた際には、盤石な財政状況では決してないことから、市民本位の行財政運営を図る姿勢を徹底するとともに、市民サービスの向上に努めるよう市に要望しました。

しおかぜホール茜浜がオープン

船橋市、習志野市、八千代市、鎌ケ谷市が共同で運営する新たな公営の第二斎場「しおかぜホール茜浜」が、令和元年10月8日に供用開始されました。

習志野市茜浜に建設され、馬込斎場の約2倍の大きさで、キッズルームなどが完備されています。

住所：〒275-0024 千葉県習志野市茜浜3丁目7番6号 TEL：047-409-9270

最寄り駅：JR京葉線 新習志野駅 ※ 斎場まで約3km

＜主要施設の概要＞

式場：4室、告別室：5室、収骨室：5室、待合室：15室、キッズルーム・授乳室
火葬炉：12基（15基まで増設可能）、駐車台数：300台

